

移住交流支援センターだより



地域おこし協力隊
橋本 泰子
グリーンバレーが取り
組む移住交流支援
事業について、詳し
くお伝えします。

今回は神山町にサテライトオフィスを開設し、ご家族で移住をされたみなさんをご紹介します。



ご自宅：神山町広野
千代田 裕樹さん (44歳)・孝子さん (40歳)
宇太くん (6歳、広野保育所)
美橙ちゃん (3歳、広野保育所)

ます。また、ここでは「神山に住んでいる」という共通項があることだけで、いろんな世界で生きる人と出会えます。職種や生き方が違って交流できることを子どもたちが肌で感じながら育っていきけることが、今後の人生にとって大きいのではないかと思います。(孝子さん)

◆今、思うこと

神山で暮らし始めてもうすぐ2年が来ようとしています。季節も巡り、その時間の中で、気持ちにも変化が起こり、ようやく「これから」という気持ちになりました。神山に出会い、楽しい時間を過ごしています。震災後未だ解決しない問題を抱えている社会の中でどう「楽しい」を伝えていくのか、伝えることをちゅうちょよしてきましたが、経た時間の中でそれぞれが落ち着きどころを得てきた気がしています。「ここでの生活を楽しもう！」そう思えた時に、「子どもはここで育てよう」と腹がくくれました。

子どもたちには「生きることに対して『楽しい』と思って欲しい」「大人になって自分で楽しさを見出せる人になってほしい」と思っています。(裕樹さん、孝子さん)

【会社概要】
会社名：ブリッジデザイン
業務内容：ウェブデザイン、ウェブ制作

◆移住のきっかけは？

2011年3月に起きた震災、そして原発事故の影響で、繋がりがあった知人を訪ねて千葉県から徳島市へ避難しました。

「○○のせいで…」と考えていても行き詰まるばかり。「どうせなら『楽しい』ことをして生きよう！」「阿波踊りだ！」と千葉を離れることを決意し2012年3月に知人からの紹介で神山町に移住して来ました。(裕樹さん)

◆神山での暮らしはいかがですか？

水も空気も本当に綺麗な神山で子どもたちを見ながら、都会育ちの私は「うらやましいなあ」と思い

そんな千代田家の神山での生活は、ひと目で気に入ったというロケーションが見渡せる広野のお家で始まっています。

現在は、「豆ちよ」という名前で珈琲豆の焙煎や販売しながら、神山での暮らしを楽しみ、自宅でワークショップなどのイベントを行ったり、手作り市への出店も行っているそうです。

〈豆ちよのお問合せ〉E-mail: info@namechyo.com



ご自宅：神山町神領北
井上 慶彦さん (43歳)・たきさん (41歳)
りんちゃん (10歳、神領小学校)
周くん (6歳、下分保育所)

◆移住のきっかけは？

震災、そして原発事故の影響で、神奈川県鎌倉市から2011年11月に移住しました。余震が続き、放射能の影響で安心・安全な食材も手に入らず、移住先を探していたところ、神山町に出会いました。たまたまNPO法人グリーンバレーが行っている神山アーティストインレジデンスの期間と重なり、アート作品、そして神山の人たちとの出会いがとても楽しい時間となりました。また、古民家見学の際、田んぼの中に入っ

【会社概要】
会社名：(有) 井上広告事務所
業務内容：雑誌広告、パッケージデザインロゴデザイン

◆神山での暮らしはいかがですか？

震災後はとにかく子どもたちの「食」のことが不安で、お弁当にするための食材のことばかり考え続けた半年間だったので、移住できたことにホッとしました。

また、私たちのようにデザイナーの仕事をしている方やアーティストもこの町には沢山いて、田舎であって

も違和感なく暮らせています。また、自宅で仕事を営むことが多いのですが、そのことに対して地元の理解があり、非常に助かっています。

町内で開催されるイベント活動などで、子どもたちがアートや自然に触れられることも子どもたちにとって、とても大切なことだと思っています。(たきさん)

◆今、思うこと

「ふるさと」を失った人がいる」と震災後、何度も思う毎日でしたが、「ふるさと」という概念を私はここに移住して初めて分かった気がしています。おそらく、仕事のことだけでなくあれば、移住先は神山でなくても良かったのかもしれない。でも、ここが「ふるさと」なんだと感じさせてくださったのは、シニア世代の方々の出会いでした。今ではその出会いを通じて「価値のある田舎暮らし」とはコレだ！と思うようになりました。(慶彦さん)

※井上家では、大家さんから「家を改築していいよ」と仰って頂いたことをきっかけに、移住先となったお家の床や壁を大工さんのご協力を得ながら、自分たちの手で改修。ウッドデッキのある素敵な家に変身しています。

